

令和7年度 第2回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和7年10月21日（火） 午前9時30分から12時45分まで
- 2 場所 静岡県立浜北西高等学校 応接室 他
- 3 出席者（委員、敬称略）
梅林欽哉（元小学校・中学校管理職）、阿部卓也（静岡県議会議員）、
横田みどり（横田整形外科婦長）、中津川智美（常葉大学経営学部教授）、
松本幸範（浜北国際交流協会副会長）
学校関係者
野澤博文（校長）、小室桜子（副校長）、榎本好孝（教頭）、中村明江（事務長）、
北野典子（探究班長）

4 議事

第一部 総探の日

- (1) 開会式 校長挨拶、趣旨説明
- (2) 講師 座談会及び中間発表会
- (3) 全体会 探究班長挨拶、アンケート

第二部 意見交換

(1) 良かった点

- ・常葉大学生と浜北西高生との探究活動の連携は、今年で5年目。今年から、テーマがSDGsから進路希望に沿った形に変わったので、発表もバリエーションが豊富だった。それに合わせ、大学生側も各自興味の合うテーマを選び、その発表を担当させたところ、大学生の満足感も高かった。
- ・テーマのねらいや探究の方法、結果のまとめもきちんとしていて、非常に良かった。生徒達の努力が伺え、大変いい時間を過ごせた。
- ・思った以上に深い視点のテーマもあり、将来が楽しみである。
- ・観光をテーマにアプリを作りたいというグループがあり、驚いた。
- ・ICTやDXに興味や知識を持つ生徒が多く、これからはICTやDX抜きの仕事はできないと刺激をもらうとともに、勉強になった。
- ・外国人とのコミュニケーションの仕方についての質問があったり、浜松市内の外国料理店のマップを作りたいという発表があったりと、外国に対する興味が高いことを嬉しく思った。
- ・看護師志望の生徒を担当したが、皆しっかりしていたので、希望に満ちた看護学生と接しているかのような錯覚を覚えた。
- ・講師として探究に関わるようになり3年目だが、年々レベルが高くなっていくと感じる。調べ学習に留まらず、2～3年は継続できそうなテーマで、きちんと探究しており、素晴らしい。

(2) テーマ設定について

- ・外部の人と話すことで、生徒の視野が広がりテーマの選択肢も広がる。この座談会は、テーマが決まる前のもう少し早い時期が良いのではないかな。
- ・最も難しいのが、テーマ設定だと思う。半日や一日ではとてもできない。少なくとも一週間以上はかかるのではないかな。

(3) 講師への事前説明について

- ・座談会や中間発表会で何をやったらいいか分からないという声が、他の講師から聞かれた。初めての講師には、丁寧な説明が必要かと思った。
- ・事前に探究テーマを送ってもらっていたので、十分に準備ができた。(運営協議会委員)
- ・グループによりテーマ設定にバラつきがある。具体的なテーマもあれば、ざっくりとした大枠のテーマのところもあり、難しい部分もあると感じた。

(4) 生徒達へアドバイスした内容

- ・各グループに合ったフィールドワーク先を紹介できるので、是非活用してもらいたい。外部の人の話を聞くと、探究が深まると思う。
- ・ピクトグラムを作るグループに対し、作成したピクトグラムを、校内で、文字標識と比較してみたら面白い結果が得られるのではないかと提案した。
- ・外国人とのコミュニケーションで大切なのは、上から目線にならないことであるとアドバイスした。
- ・外国人（英語圏以外）に日本語を上手に教える方法を聞かれたので、日本語で日本語を教えようとせず、英語を間に入れると良いと助言した。
- ・外国人向けの日本語教室を浜北文化センターで土曜日に開催しているので、見学したい生徒がいたら気軽に連絡して欲しい。

(5) 学校から

- ・今年の総探の日は、二つの改革にチャレンジした。一つ目は、中間発表を1年生にも取り入れたことである。1年生は文化祭直後の7月からの探究活動だったので、時間不足で内容が浅くなるのではないかと心配していた。二つ目は、2年生のテーマを自由にしたことである。進路に関連したテーマを選んで良いことにしたが、調べ学習にならないか心配だった。しかし、皆さんの感想を伺い、それなりに出来たことが分かって大変安心した。
- ・外部の方に関わっていただくと、普段とは違う生徒の表情が見られる。また、「すごく楽しい」「先生方がとても素敵」と生徒が話しているのを聞き、嬉しく思うとともに、感謝の気持ちで一杯である。
- ・講師やグループの割り振りは、生徒の希望は取らず、担当が行っている。全グループのテーマに当てはまる講師をそれぞれ呼ぶことができないので、こちらで調整して割り振った。どこにも属さないグループは、今回常葉大学で見ていただいた。
- ・お褒めの言葉をいただき、大変感謝している。これを励みにして、さらに生徒を伸ばしていきたい。特に、本校の探究で身に付けたい5つの力(※)のうち、伝える力はもっと改善できる。人前で発表する機会は社会に出ると多くあり、苦手だからといって回避できない。人前で発表することが苦手な生徒もいることを考慮しつつ、どんな風に力を付けさせるか今後考えていく。

※探究で身に付けたい5つの力：①見つける力、②考える力、③つながる力、④伝える力、⑤よりよくなろうとする力